

自然災害発生時における業務継続計画

法人本部 ワークス わくわく		わくわく未来CAN2 わくわく未来CAN 相談事業部	
代表理事	飯塚 陵子	管理者	井上 幸代
所在地	瀬谷区南台 1-17-3	所在地	瀬谷区相沢6-18-10
電話番号	045-303-2080	電話番号	045-303-6161

1 総論

(1)基本方針

本計画は、大地震等の自然災害や感染症の蔓延など、不測の事態が生じた際に事業所職員及び利用者の命を守ること、安全を確保することに尽力し、早期の事業復旧、継続を目指すための体制、手順等を示すものである。

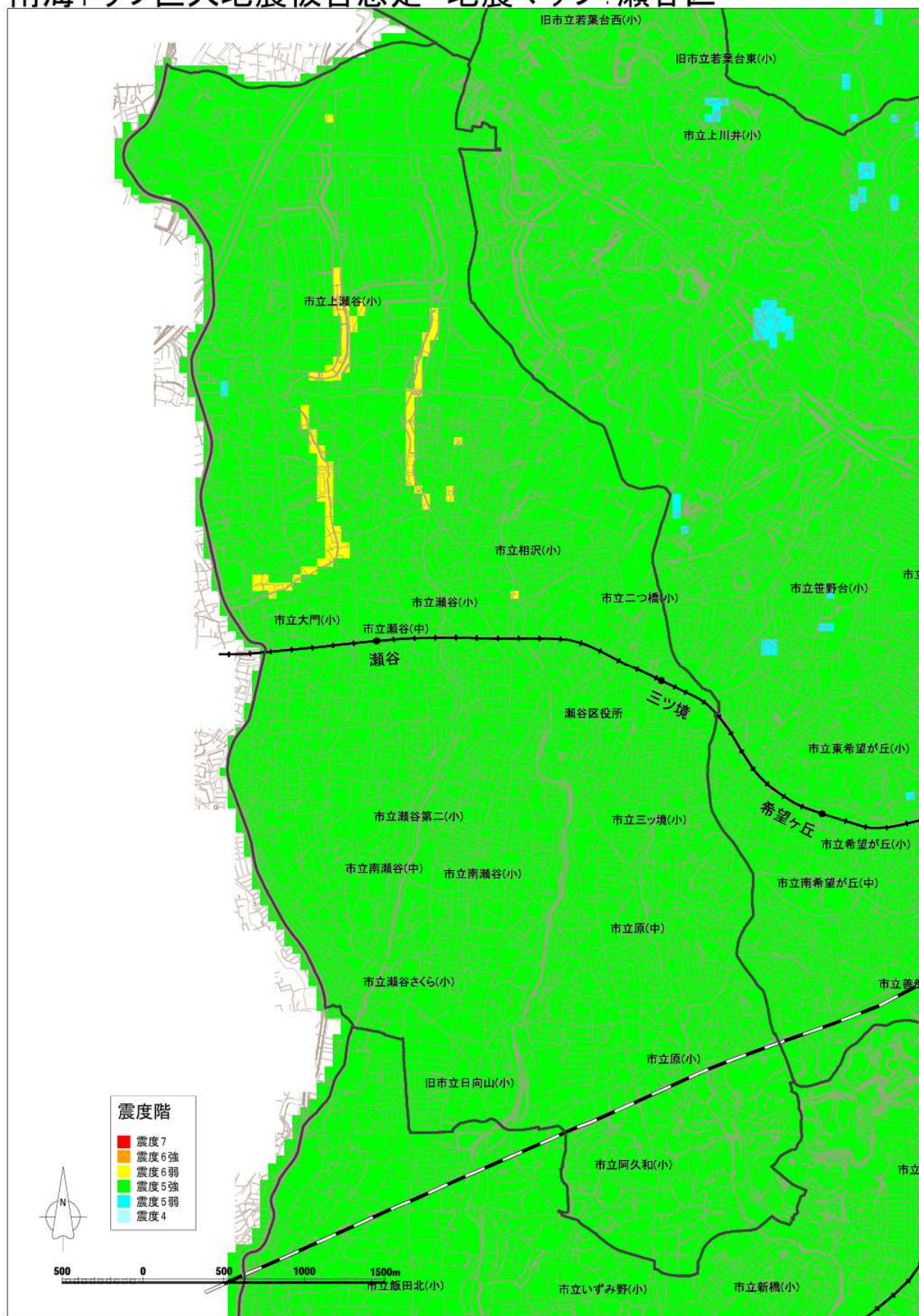
(2)推進体制（平常時の災害対策の推進体制を記載する。）

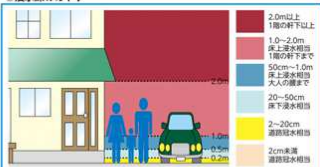
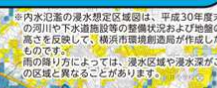
主な役割	部署・役職	氏名	補足
全体統制	管理者	井上 幸代	常勤
命令・伝達	児発管	川上 亜希子	常勤
家族連絡 外部連絡	相談員・児発管	山本 菜々子	常勤
職員の管理	児発管	川上 亜希子	常勤
情報収集	常勤 児童指導員	藤田珠羽 鈴木心	常勤

(3)リスクの把握

- ・南海トラフ想定（別紙）
- ・瀬谷区内 内水ハザードマップ（別紙）
- ・災害時給水マップ

南海トラフ巨大地震被害想定 地震マップ: 瀬谷区





保存版

災害時の飲み水はここで！



横浜市水道局

令和4年7月発行



災害時給水マップ

瀬谷区

水道局では災害時に飲み水を得られるように、皆さまが住んでいるところから約500メートル以内の小・中学校や公園などに災害時給水所を設置しています。災害時は停電により電話やインターネットも使えない可能性があります。前もってこのマップで近くの災害時給水所を確認しておきましょう。



災害用地下水タンク

普段は水道管として使われ、新鮮な水道水が流れています。災害時に水圧が下がると、自動的に出入り口が開まり、タンク内に飲み水を確保します。



配水池

非常時には、市民の皆さまが必要とする飲料水の1週間分に相当する水量を確保します。断水時に給水を行うほか、給水車への水の補給場所となります。



緊急給水栓

地震に強い水道管(耐震管)に仮設の蛇口を取り付けて給水する施設です。震災後おおむね4日以内、水道局職員が断水状況を確認して順次仮設の蛇口を設置していきます。



耐震給水栓

蛇口までの水道管を耐震化した、地震に強い屋外の水飲み場です。災害用地下水タンクなどが設置されていない市内48か所の地域防災拠点を対象に整備を進めています。

お問い合わせ

水道局お客さまサービスセンター



045-847-6262



045-848-4281

※お問い合わせの際は、この冊子をお持ちください。

② 被災想定

大きな被害が予想される災害について、自治体が公表する被災想定を整理して記載する。

【自治体公表の被災想定】

〈想定地震〉①元禄関東型②東京湾北部③南海トラフ型④慶長型 の地震を想定して最も被害が大きい場合の想定(横浜市防災計画より)

交通被害

道路: 地震9～13日の通行止めが想定される。

県道45号、主要地方、丸子中山茅ヶ崎線(中原街道)は瀬谷区の緊急交通指定想定路になっている

水害)ハザードマップ参照

橋梁ひび割れ等はみられるものの、桁の落下等致命的な被害はない

鉄道:信号機、架線の破損や路盤陥落により路線の屈折損傷が多数発生、被害確認及び修理復旧まで数日～数か月が予想される

ライフライン

上水:7450世帯の断水(8世帯に1件)

下水:1928世帯の流し機能支障(29世帯に1件)

電気:5636世帯の停電(10世帯に1件)

ガス:32,877件の都市ガス供給停止(1.7世帯に1件)

通信:716件の電話不通世帯(80世帯に1件) → ※携帯のも調べるが不明

(瀬谷区防災計画より。世帯総数56,618世帯)

【自施設の被災想定】

自治体発表の被災想定から自施設の設備等を勘案のうえ記載する。また、時系列で整理することを推奨する。

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	...
電力	発電機 →	復旧	→	→	→	→	→	→	→	→
飲料水	保存水利用			給水車	復旧					
生活用水	保存水利用			給水車	復旧					
ガス	カセットコンロ使用							復旧		
携帯電話	公衆電話、伝言ダイヤル					復旧				
ガソリン	給油済みのもの使用					復旧				

(4)【優先業務の選定】

①優先する運営する事業

<優先する事業>

(1) 放課後等デイサービス

優先順位1. 両親とも 常勤の公務員／救急指定病院勤務の家庭でかつ、
非常招集が実際に発生した家庭

優先順位2. 両親とも 勤務先からの緊急招集が実際に発生した家庭

優先順位3. ごきょうだい・ご家族に緊急的医療対応が発生した家庭

(2) 計画相談・児童相談

優先順位 1. 単身生活の方

優先順位2. ご両親が高齢でご自宅で生活されている方

(5) 研修訓練の実施、BCP の検証・見直し

①研修訓練の実施

訓練実施の方針、頻度、概要等について記載する。

最低、年2回の避難訓練を実施し訓練後に評価を行う。

瀬谷区消防署の協力を仰ぎ、消防署員の指導の下、避難訓練を実施する。

訓練後に評価及び質疑応答の場を持ち、今後の訓練に生かすことができるようすすめる。

定期的に消防署開催の堅守や部門会議での内部研修を実施する。

②BCP の検証・見直し

災害対策委員会が定期的に協議し、管理者が承認する。

1か月に一度の委員会において取り組みと評価を実施し、部門会議において、全スタッフに報告を行う。

法人全体としての見直しを定期的に行う。

2【平常時の対応】

(1) 建物・設備の安全対策

① 人が常駐する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
未来CAN	飛散防止フィルム貼り付け	
離れ		

② 設備の耐震措置

対象	対応策	備考
消火器など	消火器の設備点検	
冷蔵庫	家具転倒防止伸縮棒	
書庫	家具転倒防止伸縮棒	

③ 水害対策

対象	対応策	備考
浸水による危険性の確認		
外壁のひび割れ 欠損、ふくらみ		
暴風雨による危険性の確認		
周囲に倒れそうな樹木、 飛散しそうなものはないか		

④ 雪害対策

対象	対応策	備考
急な積雪、道路の凍結	スタッドレスタイヤの装着	

(2) 電気が止まった場合の対策

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
電源	発電機、蓄電池
情報機器(パソコン)・携帯電話	バッテリー充電器の用意
冷蔵庫	夏場は暑さ対策として保冷剤を用意
照明器具	懐中電灯・乾電池の準備
暖房器具	石油ストーブ・毛布・カイロ

(3) ガスが止まった場合の対策

石油ストーブや卓上コンロを代替策として使う

(4) 水道が止まった場合の対策

被災時に必要となる飲料水および生活水の確保を記載する。

① 飲料水

飲料水 ウォーターサーバーの水をストックし使用する

② 生活用水

使用期限切れの水(2ℓペットボトル)を生活用水として使用する

(5) 通信が麻痺した場合の対策

災害時に施設内で実際に使用できる方法(携帯メール)などについて、使用可能台数、バッテリー容量や使用方法等を記載する。

未来 スマホ 6台
蓄電池から充電

(6) システムが停止した場合の対策

電力提供などによりサーバー等がダウンした場合の対策を記載する(手書きによる事務処理方法など)。震災リスクが想定される場合はサーバーの設置場所を検討する。データ類の喪失に備えて、バックアップ等の方法を記載する。

本部にて対応。本部の対応に従う

(7) 衛生面(トイレ等)の対策

被災時は、汚水・下水が流せなくなる可能性があるため、衛生面に配慮し、トイレ汚物対策を記載する。

① トイレ対策

【利用者】

災害用トイレ

【職員】

未来CAN勤務時は災害用トイレを使用

② 汚物対策 排泄物や使用済みのオムツなどの汚物の処理方法を記載する。

排泄物や使用済みのおむつなどの処理方法を記載する。

汚物用消臭袋を使用 ※購入予定

消臭袋に入れて外のゴミ箱にまとめる。

(8) 必要品の準備

被災時に必要な備品はリストに整理し、計画的に備蓄する。(別紙添付)

定期的リストの見直しを実施する。備蓄品によっては、消費期限があるため、メンテナンス担当者を決め、定期的買い替えるなどのメンテナンスを実施する。

(9) 資金手当て

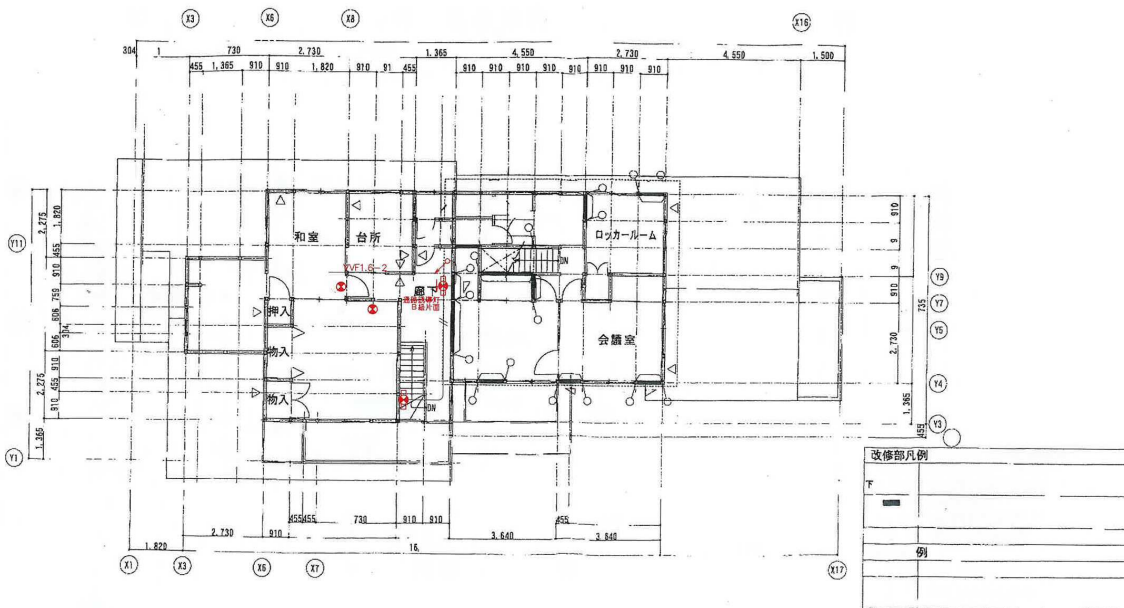
災害時に備えた資金手当て(火災保険など)を記載する。

緊急時に備えた手元資金等(現金)を記載する。

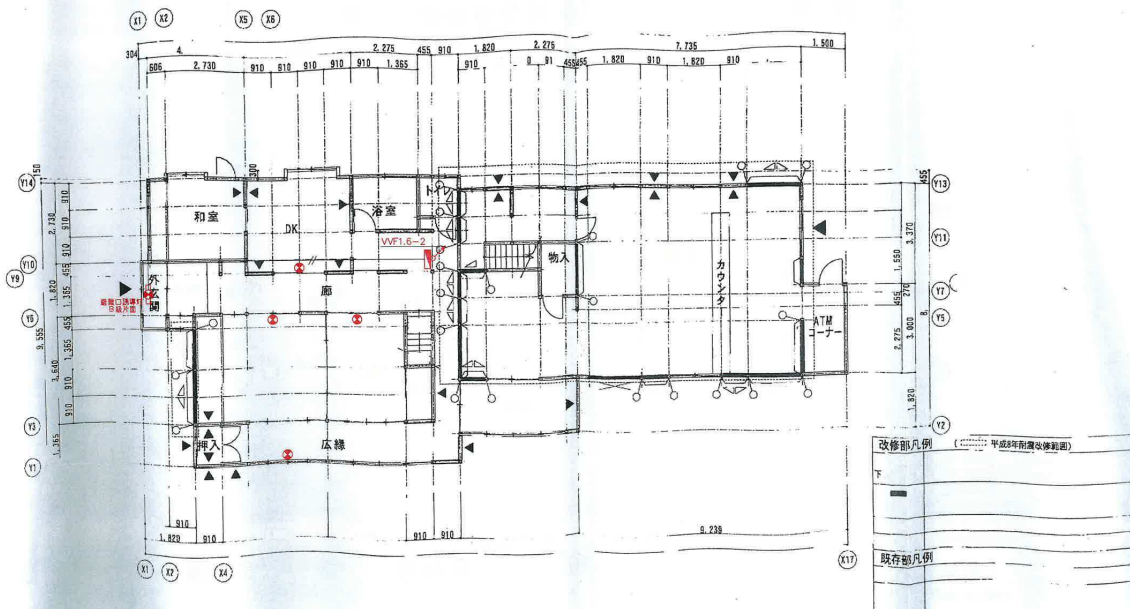
小口現金として 30,000 円

※火災保険等は本部にて保管、対応

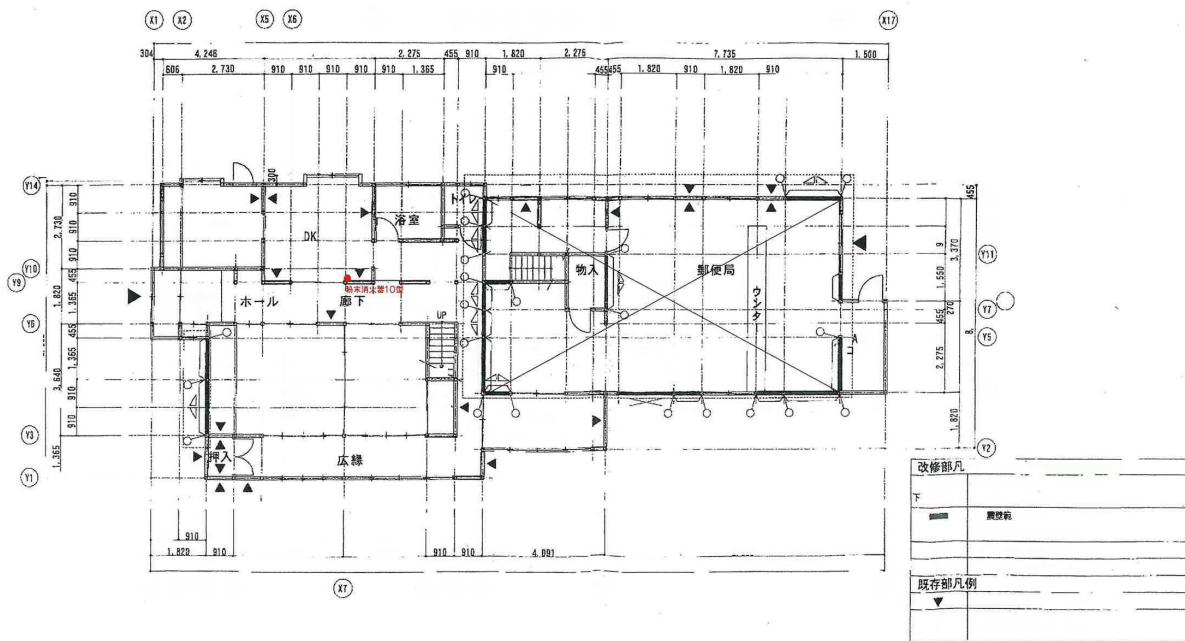
建築概要	
建物名	源谷区役所
所在地	神奈川県横浜市源谷区相澤6-
階数	木造2階建て 1棟
床面積	延べ床面積 ㎡
階高	(基礎天端から構架材天端) 2階2820mm



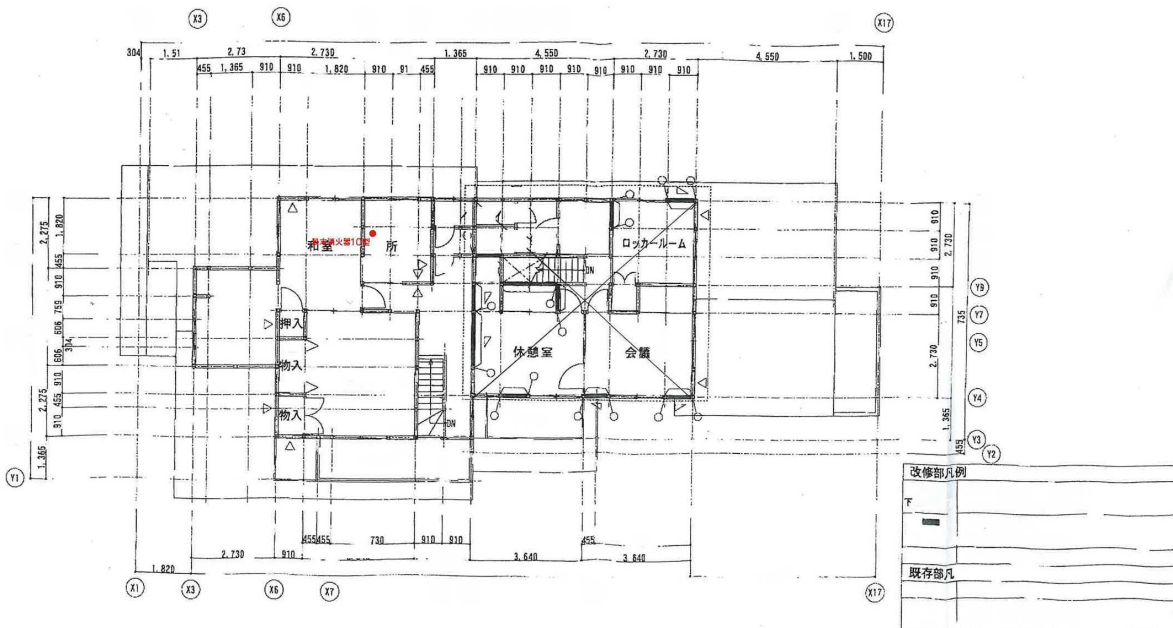
建築概要	
建物名	住宅
所在地	神奈川県横浜市源谷区相澤6-
階数	木造2階建て 1棟
床面積	延べ床面積 310.35 ㎡
階高	1階 天端から 構架材天端) 940mm 870mm



【建築概要】	
建物名	1 鹿嶋市瀬谷区
所在地	千葉県鹿嶋市瀬谷区
規模・構造	木造2階建て 1棟
床面積	延べ床面積
階高	階 5 模造材天端) 2



建築概要	
建物名	瀬谷区住宅
所在地	千葉県鹿嶋市瀬谷区相澤6-
規模・構造	木造2階建て 1棟
床面積	延べ床面積
階高	(高層天端から模造材天端) 2階2820mm



緊急時の対応

(1)BCP発動基準

地震の場合、水害の場合等に分けて BCP を発動する基準を記載する。

【地震による発動基準】

※震度5強以上

【水害による発動基準】

※水害レベル3

(2)行動基準

屋外活動中に震度 5 以上の地震が発生した場合

- ① 建物の塀や大きな木など倒れそうな場所から離れ、頭を守る。
- ② 人数、けが人の有無、状況の確認後、常勤職員を指示者とし、命を守る行動に移る。
- ③ 指示者に指名された人は未来 CAN に上記確認事項を現在地とともに報告する。
また、ラジオ(FM ヨコハマ)、携帯から情報を収集する。
- ④ 揺れが収まり、子どもたちが落ち着いたら、安全と思われるルートで未来 CAN へ戻る。

屋内活動中に震度 5 以上の地震が発生した場合

- ① 頭を守り、屋外へ出る。
- ③ 子どもの持ち物は水筒・靴のみ。
- ④ 揺れが収まったら隣接するみはらし公園へ移動。人数とけが人の有無の確認。ラジオで情報収集。
- ⑤ 登録台帳・避難リュックを持って相沢小学校へ移動。未来 CAN 建物が倒壊していない場合、
未来 CAN で待機
- ⑤ 保護者の方のお迎えを待つ

業務再開の目安について

- ① 学校が再開している
- ② 未来 CAN の建物が倒壊していない・倒壊の恐れがないことが確認できている
- ③ 職員の安全確認・確保ができている



3つの条件がそろった段階で、営業を再開

職員行動指針

放課後等デイサービスわくわく未来CAN2／ わくわく未来CAN 相談事業部

地震による災害時の職員行動指針

（地震による災害時の職員行動指針について）

行動指針作成の目的は、「職員自身のいのちと安全を守る」「二次災害を減じる」「72時間後の業務再開」へつなげることである。

また、屋外で活動することが多いわくわく未来CAN2の活動について、「現場の職員の判断」で最善の努力をしていく。

1. 子どもの安全を守る最大限の努力
2. 1時間以内に職員と子どもの安否を確認完了する
3. 5時間以内に子どもを保護者に引き継ぐ
4. 72時間後からの業務再開をめざす
5. 指示命令系統を明確化し、行動の統制を計る
6. 現場ごとに異なる状況にもとづく判断は、「最大限の安全確保の努力がなされているもの」とみなし、現場判断・行動についてなんら個人責任を問わないものとする
7. 屋外での活動（送迎を含む）については、状況を冷静に把握し「今いる現場で、最大限の安全配慮を行う」こと かつ 「二次事故を防ぐ」ことを再確認する。この場合、上記5.にとらわれないものとする

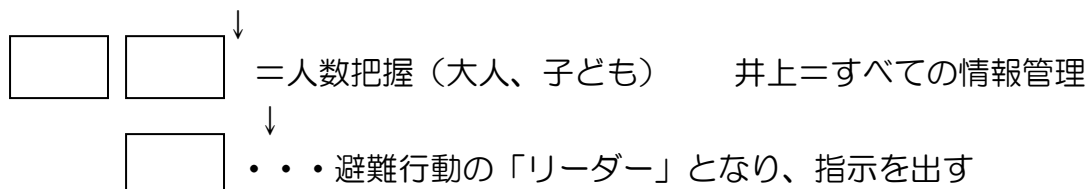
この指針は井上が不在・死亡、指示命令が出せない事態であっても、すみやかに代行者の指示命令に従い、自らの命と二次事故の発生を防ぎ、子どもたちの安全を守る行動を冷静にお願いしたい。

（３）対応体制

【災害発生時の指示命令系統】

《全体活動中》

室内、屋外とも井上が指示命令系統を統括できる場合



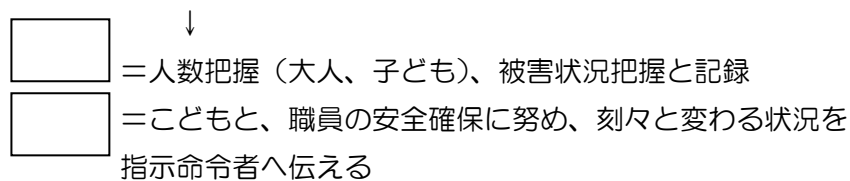
《分散活動中・送迎》

職員１名が指示者となる。送迎中に関しては、運転者がリーダーとなり、現場状況の把握と、同乗者への指示出しを行う

「最善かつ二次事故が防止できる」方法を決定

《井上が指示命令できない》

川上が指示命令者



- ・ 指示命令者には、全職員が従う。絶対に別の指示を出さない。
- ・ 即断即決し、協力を仰いで二次災害を減ずる。

【災害発生時の職員行動】☆室内編

震度5以上の地震発生が確認された時点で、すべて「現場判断の行動」

地震発生【BCP 発動】	すべての業務を中止（送迎、活動、相談）
5分以内	室内活動＝①全員、庭に集合／玄関にいる職員が靴を庭へ投げる ②大きな揺れが収まり次第、点呼 分散活動＝送迎を含めてその現場職員が現場に応じた安全を確保した判断を行い、避難行動を開始。 送迎　＝運転者がリーダーとなり、同乗者が利用者の状況を把握する ☆情報は、FMよこはま（カーラジオ、電池式ラジオで確認します）
10分以内	職員は、ヘルメットを着用し、持ち出しグッズと台帳を持ち出す 避難開始：①個人の荷物は、<u>水筒と靴だけ持たせる</u> ②みはらし公園へ移動開始 ③初期消火（深追いはしない）
30分経過以降	職員1名 紙に大きく避難先を書いて目立つところへ掲示 その他の職員＝地域の防災拠点（相沢小学校）へ移動予定。
30分以降～	<u>送迎は一切引き受けない。蘇生が必要な児童の保護者へ連絡を取り続ける。</u> 送迎中の場合は、現場判断となります。 ☆同乗の常勤者は、事務所か、未来CANに戻る
1時間後～	徒歩30分以内の職員＝いったん帰宅・・・翌日明るくなったら出勤 徒歩30分以上の職員＝道路、電車の状況に応じて、泊る場合あり 常勤職員＝家族の安否確認を取る→状況に応じて、泊る。
5時間以内	保護者へ引き渡し完了 ①5時間経過し、24時間以内に引き取りがない場合は、常勤職員が「保護者行方不明」として瀬谷警察へ届け出る。 ②徒歩30分以内の職員＝翌日明るくなったら2食分＋水筒に水をもって出勤。泊った職員と交代する。 ② 児童の食事は、ローリングストックしてある「おやつ・昼食」、カセットコンロでストックの水を沸かして使用。
72時間経過後 【事業再開】	事業再開の優先順位に従って、業務を再開する。 通常の事業再開＝「学校が再開」「公共の交通機関が機能」もめやすとします

【災害発生時の職員行動】☆ウォーク編

震度5以上の地震発生が確認された時点で、すべて「現場判断の行動」

地震発生【BCP 発動】	ウォークを中止
5分以内	現場職員がその場に応じた安全を確保する。 大きな揺れが収まり次第、点呼 未来CANへ連絡（電話が通じない場合は、「171」に状況を伝言する）
10分以内	その場にいる職員で話し合い指令のリーダーを決める。その後はリーダーの指示に従い、避難行動を開始。 ☆情報は、FMよこはま（カーラジオ、電池式ラジオで確認）
30分経過以降	未来CANまたは、地域の防災拠点（相沢小学校）へ移動予定。
30分以降～	
1時間後～	
5時間以内	
72時間経過後 【事業再開】	

いつ起こるか分からない災害に備え、

普段のウォークから未来CANリュックと携帯を忘れずに持ち歩く。

定期的にリュックの中身の確認（ラジオ・救急セット等）

水筒の水は満タンにして出発することも徹底

【災害発生時の職員行動】★送迎編

震度5以上の地震発生が確認された時点で、すべて「現場判断の行動」

地震発生【BCP 発動】	送迎を中止
5分以内	運転者はハザードランプを付けて、できるだけ安全な方法で道路の左側に停止し、安全を確保する。大きな揺れが収まるのを待つ。 （引き続き車を使用する場合は、道路の損壊、信号機の停止、道路上の障害物などに十分注意する）
10分以内	運転者・同乗者共に自分自身のけがの状況や送迎中のご利用者の怪我の状況などを把握する。 ラジオを付ける。（FMよこはま） 未来CANへ連絡（電話が通じない場合は、「171」に状況を伝言する） 運転者がリーダーとなり、現場判断の行動を開始。 現場判断で行動 （例） ・ご利用者のお家がすぐの場合など、保護者と連絡をとりあう。 ・避難 お子さんと一緒に歩いて一番近い避難場所に避難又は未来CANへ戻る ※車のカギはつけたまま。車検証と赤いバックをもちだす。 車に連絡先のメモを残す。 ・帰宅 お子さんの送迎を終えた後、被災した場合は、状況について未来CANと連絡をとりつつ（または171に伝言を残し、）車検証と赤いバックをもって車を離れる。 非常勤、アルバイトは帰宅。 常勤者は、事務所か、未来CANに戻る。
30分経過以降	
30分以降～	
1時間後～	
5時間以内	
72時間経過後 【事業再開】	送迎は行わない

車を置いて避難するときは、できるだけ道路外の場所に移動しておくこと。

やむを得ず道路上に置いて避難するときは、道路の左側に寄せて駐車し、エンジンを止め、エンジンキーは付けたままとするか運転席などの車内の分かりやすい場所に置いておくこととし、窓を閉め、ドアはロックしないこと。

駐車するときは、避難する人の通行や災害応急対策の実施の妨げとなるような場所には駐車しないこと。

～警察庁ホームページより～



【事業継続・再開手順】(事業継続)

事業継続の優先順位・・・状況により、判断は現場職員となります。

- ①残っていることについて、どの職員が対応するか → 原則、常勤職員
- ②職員の交代は、いつするか → 原則、発災後一晩を越え、明るくなった段階で出勤できる職員と、①の職員は交代。
- ③作業の優先順位は → 電動自転車の充電。発電機を動かし、充電します。
物置から、水・食料・食器類を出します。
- ④ご近所の対応は → 必要に応じて、避難してきたご近所の方を対応。
どこまで対応するか、は現場判断します。
(相沢小学校への誘導がのぞましい)
- ⑤外部連絡・情報収集 → 未来 CAN2 業務優先。順次相談事業部業務再開。

7 2 時間後の再開の優先順位

- ①職員全員が、家族の安否を確認した時点で、3 名／1 日 の体制を組みます。
- ②送迎車の回収＝車検証・給油カードを持っている職員が、車の回収に動きます。

(事業再開)

以下の基準の家庭のみ受け入れとする。

優先順位 1. 両親とも 常勤の公務員／救急指定病院勤務の家庭で
かつ 非常招集が実際に発生した家庭
優先順位 2. 両親とも 勤務先からの緊急招集が実際に発生した家庭
優先順位 3. ごきょうだい・ご家族に緊急的医療対応が発生した家庭

ただし、

- ①公共交通機関が正常に戻るまで、送迎は対応しない
- ②利用時に余震など非常時は、登録台帳「勤務先の固定電話」に電話をする
- ③水筒（中身は、水かお湯）、非常食（2 食分）、くすり、着替えを毎回持参させる

通常の利用再開

基準 1 「公共交通機関が正常な状態に回復」

基準 2 「通学先の学校が再開」

基準 3 建物が使用可能になった

ことが再開の基準となる

(5) 対応拠点

緊急対応体制の拠点となる候補場所を記載する(安全かつ機能性の高い場所に設置する)

第一候補場所	第二候補場所	第三候補場所
未来 CAN		

(6) 安否確認

① 利用者の安否確認

震災発生時の利用者の安否確認方法を検討し、整理しておく。なお、負傷者がいる場合には応急処置を行い、必要な場合は速やかに医療機関へ搬送できるよう方法を記載する。

利用者の安否確認シート

利用者氏名	安否確認	容態・状況
□	無事・死亡・負傷・不明	
グ	無事・死亡・負傷・不明	
磯	無事・死亡・負傷・不明	
兜	無事・死亡・負傷・不明	
岩	無事・死亡・負傷・不明	
岩	無事・死亡・負傷・不明	
佐	無事・死亡・負傷・不明	
芝	無事・死亡・負傷・不明	
小	無事・死亡・負傷・不明	
小	無事・死亡・負傷・不明	
上	無事・死亡・負傷・不明	
杉	無事・死亡・負傷・不明	
星	無事・死亡・負傷・不明	
大	無事・死亡・負傷・不明	
丹	無事・死亡・負傷・不明	
中	無事・死亡・負傷・不明	
田	無事・死亡・負傷・不明	
拝	無事・死亡・負傷・不明	
北	無事・死亡・負傷・不明	
牧	無事・死亡・負傷・不明	
牧	無事・死亡・負傷・不明	
鈴	無事・死亡・負傷・不明	

職員の安否確認シート

職員の安否確認はグループライン、Cメールなどでおこなう

職員氏名	安否確認	自宅の状況	家族の安否	出勤可否
井	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
川	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
山	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
藤	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
鈴	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
三	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
ヤ	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
北	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
大	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
関	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
篠	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
佐	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
助	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
小	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
星	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()

職員の参集基準

事前に参集の許可のある職員を対象に、安全が確認された職員から順に参集

- ① 震度5強以上の場合は、管理者が判断し指示をする。
- ② 震度5弱内は参集する。ただし本人・家族等が被災している場合はその限りではない。また交通手段がない場合もその限りではない。
- ③ 参集できない場合は管理者に連絡して支持を仰ぐ。

() 施設内外での避難場所・避難方法

【施設内】

	第一避難場所	第二避難場所
避難場所	庭	
避難方法	徒歩	

【施設外】

	第一避難場所	第二避難場所
避難場所	みはらし公園	相沢小学校
避難方法	徒歩	徒歩

連絡先リスト

円滑に復旧作業を依頼できるよう各種業者連絡先一覧を準備しておく。

氏名	電話番号	
電気		
ガス		
水道	045-847-6262	
横浜市こども青少年局障害福祉保健課	045-671-4274	
横浜西部児童相談所	045-331-5471	
キャノン	070-3875-7557	サーバー・パソコン
太陽別館	045-300-0015	
連	045-360-9778	
かがやき	045-804-6932	
トヨタ	045-301-7111	
瀬谷区役所子ども家庭支援課	045-367-5703	
高齢障害支援課	045-367-5751	
旭区役所子ども家庭支援課	045-954-6117	
高齢障害支援課	045-954-6128	
泉区役所子ども家庭支援課	045-800-2448	
高齢障害支援課	045-800-2485	
瀬谷区社会福祉協議会	045-361-2117	
瀬谷区基幹相談支援センター	045-274-8300	
旭区基幹相談支援センター	045-365-7000	
泉区基幹相談支援センター	045-804-6938	
オレンジよこはま相談支援事業所	045-514-5654	
りん相談支援事業所	045-827-3075	
瀬谷警察署	045-366-0110	
瀬谷消防署	045-362-0119	
瀬谷支援学校 地域連携	045-302-5374	
三ツ境支援学校	045-365-3711	
相沢小学校	045-301-0365	
上瀬谷小学校	045-301-0097	
笹野台小学校	045-362-0450	
笹野台小キッズクラブ	045-362-0464	
ひなたやま支援学校	045-300-5611	
わくわく法人本部	045-303-2080	

わくわくの里	045-300-0606	
竹村の丘	045-442-6601	
戸塚内科小児科医院	045-301-0171	提携医
いっぱい	045-361-1801	
おひさま(でっかいそら)	045-302-3332	
アームス	045-489-3586	
ぷちぷち	045-442-5219	
ジュンあさひ	045-352-1134	
TOILO 瀬谷	045-594-8945	
こぱんはうす瀬谷	045-301-0688	
ネスト(学童)	045-364-1414	

情報発信(関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応)

--

平常時の対応

(1) 建物設備の安全対策

③ 人が在中する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
ガラス	飛散防止フィルム貼り付け	

④ 設備の耐震措置

対象	対応策	備考
冷蔵庫	転倒防止伸縮棒	
書庫	転倒防止伸縮棒	

(2) 電気が止まった場合の対策

災害時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替え策を記載する。

稼働させるべき設備	自家発電または代替え策
ラジオ	外出リュックのなかにあり

懐中電灯	各送迎車の赤バックの中にあり(4つ)
発電機・蓄電池	離れの倉庫にあり

(3) ガスが止まった場合の対策

災害時に稼働させるべき設備と代替え策を記載する。

稼働させるべき設備	代替え策
カセットコンロ(2)	湯沸かし用・調理用として使用
ボンベ	

(4) 水道が止まった場合の対策

災害時に必要飲料水および生活水の確保を記載する。

① 飲料水

飲料水 アクアクララ在庫あり(12L× 個)

② 生活用水

ウォータータンク(折りたたみ) ㍑ × 個

他施設への連携

(1) 連携体制の構築

① 連携先との協議

--

② 連携協定書の締結

--

③ 地域のネットワーク等の構築・参画

【連携関係のある施設・法人】

施設・法人名	連絡先	連携内容
--------	-----	------

瀬谷警察署	045-366-0110	
消防署	045-362-0119	
わくわく法人本部	045-303-2080	
わくわくの里	045-300-0606	
竹村の丘	045-442-6601	

【連携関係のある医療機関（協力医療機関等）】

医療機関名	連絡先	連携内容
戸塚内科小児科医院	045-301-0171	提携医

【連携関係のある社協・行政・自治会等】

名称	連絡先	連携内容
瀬谷区役所子ども家庭支援課	045-361-5703	

() 連携対応

① 事前準備

法人内部でのBCP内容の共有（運営委員会にて）

② 入所者・利用者情報の整理

避難先施設でも適切なケアを受けることができるよう、最低限必要な利用者情報を「利用者カード」などにまとめておく。

利用者登録台帳

③ 合同訓練

地震、火災を想定した訓練を年1回実施

地域との連携

(1) 被災時の職員の派遣

(災害福祉支援ネットワークへの参画や災害派遣福祉チームへの職員登録)

(2) 福祉避難所の運営

通所サービス固有事項

【平時からの対応】

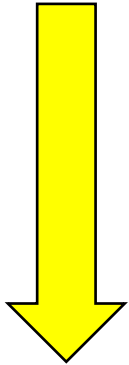
【災害が予想される場合の対応】

【災害発生時の対応】

グラグラッ！！ **地震発生**

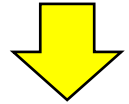
グラグラッ！！

震度4以上



揺れが収まるまで待機
状況が確認出来たら…

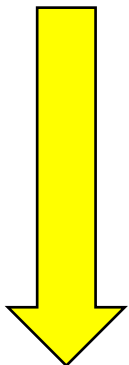
震度3以下



安全が確認できしだい
通常通りの活動を再開

職員は「くつ」と「水筒」を持ち出す準備

屋外へ避難



安全が確認できしだい通常通りの活動を再開

施設に損害のある場合は
地域防災拠点「相沢小学校」へ

その後、現場判断で移動の可能性あり。
情報共有は**災害用伝言ダイヤル**を活用

震度5弱 以上

送迎は行いません。

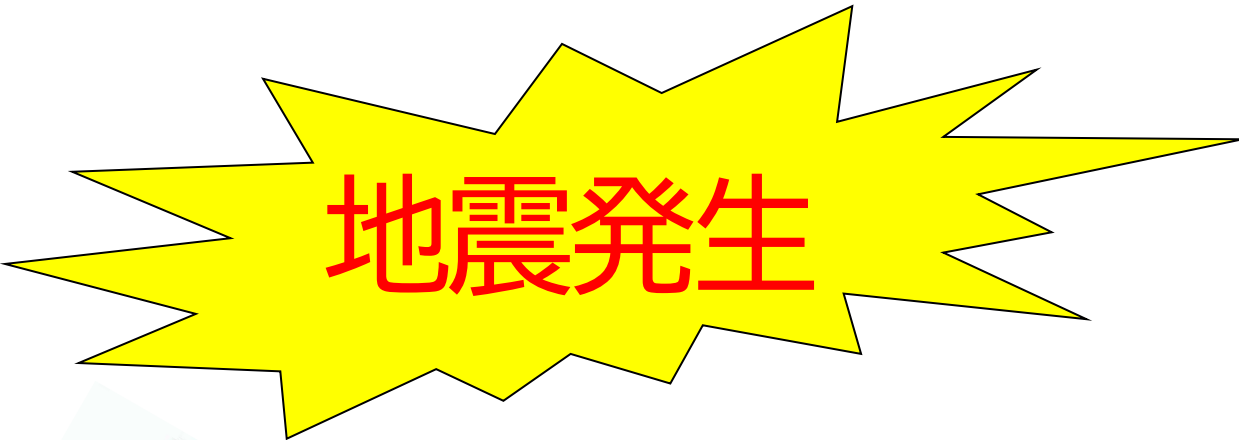
保護者の皆様は、お迎えをお願いします。

(送迎中の場合は、現場で判断して対応します。)

けがをされた場合などのみ、こちらから連絡をいたします。

ご契約の際に登録させていただく電話番号は、
必ず連絡の取れる電話番号をお願いします。

震度 5 以上の地震が発生した際の連絡手段について



地震発生



未来CANより各ご家庭へ

ご契約時にご登録いただいた電話番号へ連絡

災害発生により通信が麻痺しているなどの場合



- 1・「171」をプッシュ（音声ガイダンス）
- 2・「2」をプッシュ（音声ガイダンス）
- 3・「045-303-6161」をプッシュ（未来CANからのメッセージを通知）